



R4年度小学校英語授業づくりプロジェクト第1回目研修

私の授業実践⑦ 合志市立西合志南小学校 鶴野 雄太 先生

6年 単元名「What do you want to watch?」

○中心となる領域別目標「話すこと〔やり取り〕」(1)

○単元を通じた学習課題

○本時の目標 (7/7)

「お互いのことをよく知るために、オリンピックやパラリンピックで観戦したい競技や注目選手を伝え合おう」

「お互いのことをよく知るために、オリンピックやパラリンピックで観戦したい競技や注目選手を伝え合うことができる」

1人1台端末で言語活動の様子を動画記録に残し指導に生かす

本時は、単元最後の授業。今回、鶴野先生は、本単元で設定した評価規準のうち、「思考・判断・表現」と、「主体的に学習に取り組む態度」について、本時の言語活動を、記録に残す評価場面として位置付けて授業を実践されました。

「話すこと〔やり取り〕」は、ペーパーテストでは測ることができない領域です。また、3観点のうち、特に「思考・判断・表現」と、「主体的に学習に取り組む態度」については、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、伝え合ったり、伝え合おうとしたりする状況进行评估する」(参考資料 p31 参照)ことから、コミュニケーションの目的等を明確にした言語活動等において、子供の学習状況を見取る必要があります。

本時は、単元終末の活動として「(学級内で)お互いのことをよく知るために」というコミュニケーションの目的を明確にした言語活動を行うことから、本時の活動場面を「思考・判断・表現」と、「主体的に学習に取り組む態度」の記録に残す評価を行う場面として設定されました。

また、評価を行う方法として、やり取りの様子を観察するだけでは、全ての子供たちの学習状況を判断することは難しいため、鶴野先生は、3人1組のグループを作り、実際にペアでやり取りする様子をグループ内で撮影し合い動画記録として残すことを実践されました。

このような動画記録は、保存・蓄積することで、子供たちが互いに見合い、よいモデルを共有したり、自分自身の学習状況を客観的に振り返ったりすることにも活用できます。協働的な学びや個別最適な学びの視点からも、ぜひ、授業に取り入れていただきたいICT活用の事例です。

本単元終了後、今回の動画記録の評価への活用について、鶴野先生から、次のような感想をいただきました。

- 動画記録に残すことで、個々の子供たちの学習の様子を何度も繰り返し確認することができる。
- 一斉にやり取りをしているため、録画した音声聞き取りづらい。
- ペアの相手によってやり取りがスムーズにいく場合とそうでない場合があるため、同じ条件下での公平な評価が難しい。
- 子供が録画するため、録画の仕方によっては見取りができない映像がある。

「話すこと〔やり取り〕」の評価については、実際に授業内の言語活動での見取りが難しい側面がありますが、今回の動画記録の評価への活用は、興味深い試みです。今回の実践では改善すべき課題も多く残りましたが、鶴野先生が実際に取り組まれたことにより、その成果や課題も明らかになりました。単元終了時には、これらのことを踏まえ、録画の方法を再検討したりパフォーマンステストを新たに計画されたりと自身の授業改善を図られています。評価とは、子供たちの学習状況を見取り、教師の授業改善を図ることで、子供たちの次の学習に生かすために実施するということを体現されています。

ICT等の活用については、まずは「使ってみる」ことが大切と言われます。また、新学習指導要領にはICT等の活用により指導の効率化や言語活動の更なる充実を図ることが示されています。各学校においては、これらの視点を踏まえて、評価や言語活動等において効果的なICT等の活用を推進していただきたいと思えます。

